

## 仙人通信 127 浜石岳(707 m)

浜石岳は富士川の西、東海道の交通の要である薩埵峠から北に連なり、山頂に何本もの中継用アンテナが立つのが、富士川方面からよく確認できる三等三角点の山である。東海道本線の由比駅から、山頂近くまで林道があり、駐車場も整備されていることから、陣馬山(信玄の狼煙台)と合わせてのコースを計画した。由比駅から、みかん畑の中の急な林道を上り、野外センター下の檜林からのスタートである。5分程進むと野外センターの西端の炊事場と遊具のある広場に出る。標識に従い檜林の中を進む。林床では、柘植・青木・ヒサカキやシダの緑の葉が、昨夜の雨に濡れ、毀れ日に光る。そんな中に赤く透けるような2mm程の丸い小さな実が3個ほど重なるイチゴ状のフユイチゴの実も見える。20分程で落葉樹の南西面が開け、但沼や薩埵峠への分岐点である。駿府城の鬼門となる竜爪山も望める。更に5分程で最初の中継用アンテナ横を過ぎ、野外センターからの林道が大きくUターンして行く。林の中を進むと、躑躅や春先に黄色い花を付けるナニワズノ葉が綺麗である。足元の石は紫蘇岩石や泥岩で、この一帯は薩埵峠累層と呼ばれ、貫ヶ岳まで連なる浜石岳層群の一部である。アンテナから10分程で浜石岳の山頂だ。御殿場を過ぎる頃は、曇混じりであったが、晴れ上がり360°の展望である。真っ白な富士山・愛鷹・伊豆の達磨・眼下には駿河湾や富士川沿いの富士市・大きな砂州を抱えた清水市・竜爪・真富士・青笹・高ドッキョウ・貫ヶ岳・身延・七面・十枚、そして白く化粧した鳳凰・甲斐駒・から連なる南アルプスである。富士山の北側には御坂の山々と、そして噴火で出来た小さな瘤が可愛い。低山であるが、ここまでの展望が望めるとは・・・小休止後、北に向い100m程下がると先ほどの林道と接し、コースはアンテナの西側にある尾根を進む。足元では、葉が落ちたアジサイ・クロモジに混じり5cm程の葉を付けたツルクキョウが5mm程の赤い実を付けている。コースは杉林の中を15分程下り、また林道に出る。200m程進むが、最近降った雨で林道の法面が崩落し、完全に通行止め状態である。踏み跡もなく、ぬかるむ中を進むと、春を待つネコヤナギの白い芽、岩石が風化してボロボロと砕けるオニオンストラウチャーも発見できた。(チョト儲けた気分!!)東海・静清庵自然遊歩道の標識に従い、又もや杉林の中のコースに入る。尾根に近い事もあり、北側の林越しに富士川沿いの芝川町が望める。標識から20分程で目的地である『狼煙台』のある陣馬山(640m)である。信玄が駿府の状況を久能山から身延山を通して、入手する手段とし設けた狼煙台だそうであるが、浜石岳方面のみ切り開かれ他は杉の木立の中で、何も確認できないのが残念である。登って来たコースを戻る、3時間45分とノンビリした18000歩のハイキングを楽しみました。(h 27. 1. 28)

山頂



狼煙台(陣馬山)



富士山

